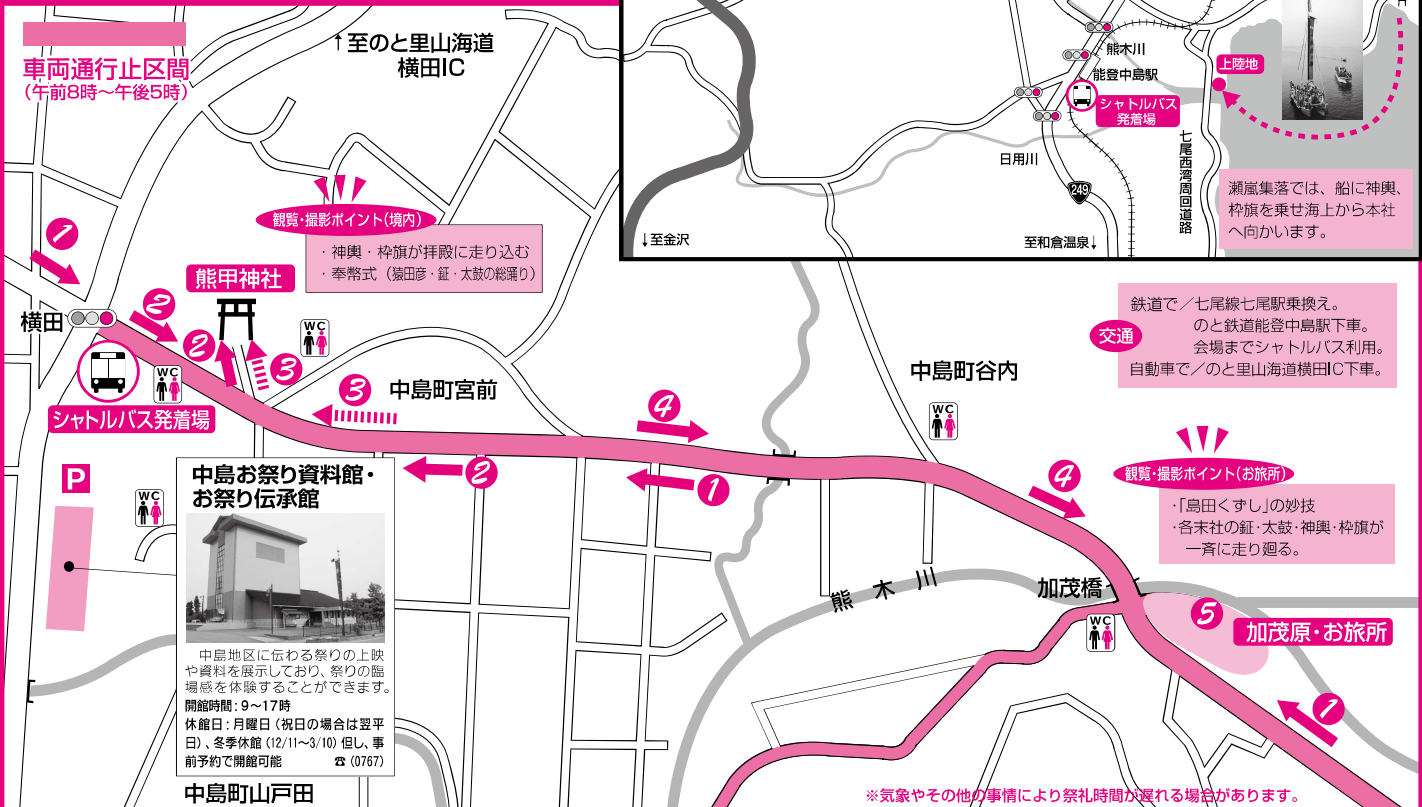


お熊甲祭運行図

9月20日は、「お熊甲祭」開催に伴い、臨時の交通規制が実施されますので、係員や表示板の指示に従って下さい。

なお、当日は、のと鉄道能登中島駅から祭り会館前までシャトルバスが運行されますのでご利用ください。
(運行時間帯:午前8時から午後5時まで)



1 道中 7時頃～ 2 境内参入 8時頃～ 3 奉幣式 10時30分頃出発 4 渡御 12時頃～ 5 お旅所 14時頃～17時頃



早朝から、それぞれの末社では、神輿を飾り、祭り衣装を着け、奉納宿に安置されていた奉幣とともに、集落を出発します。

道中、神主が行役します。神様を神輿に移す神事が行われます。

海辺の集落・瀬瀬地区では、船に神輿を乗せ、日の出を合図に七尾湾から熊木川の河口に上着きます。そのころ、各末社は熊甲神社を目指して結成と繰り出します。



神社前の数百メートルにわたり各
末社の祭り行列が勢揃いし、到着順
に神社への参入が始まります。
末社の行列が烏居をくぐり、拝殿
前へ参入すると、主導を務める塚田
彦が「メン棒」の手で拝殿のきざし
し（階段）を強く打って、「ただいま
到着しました」と告げる動作をします。
神輿、棒旗が拝殿前を走り込む光
景が2時間余りも続き、観衆を興奮
の渦に巻き込んでいきます。



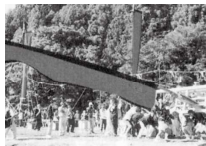
19末社全てが参入すると「奉幣式」が始まり、各末社の猿田彦が乱舞するとともに19末社の鉦・太鼓が2列になって打ち鳴らして進みます。猿田彦の軽妙な舞と鉦・太鼓の揃い打ちの迫力が見所です。

やがて、幣帛を奉る献幣使が2列に分かれた鉦・太鼓の間を縫って拝殿に入り奉幣式は終わります。



祭典後、本社神輿がくじ順で決められた一番の末社と共に出御します。

その後、各末社は参入時と同様のことを繰り返して、境内を出て700メートル離れたお旅所のある加茂原を目指します。



本社神輿が出発し、末社の行列が続きます。最後の末社が境内を出るのは、午後2時頃で、その頃半分近くは、末社のお旅所の「加茂原」へ入っています。

ここでのお練りは、2グループに分けて左廻りに行われます。数十本の深緑の杉が緑の山々に映え、金色に輝く神輿が一列に並んでいる情景は、豪華絢爛です。“畠田くずし”の妙技に見とれているうちに日は傾き、今年の祭典も終幕を迎えます。

(終了：午後5時頃)

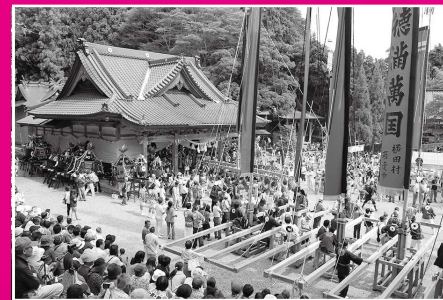
—施設案内—
和倉温泉 お祭り会館



和倉温泉街にあり、七尾市を代表する祭りを一堂に紹介しています。

お熊手祭の展示物を見ることや、お祭りシアターでは杵旗の綱を引いて「島田くずし」を体験することができます。

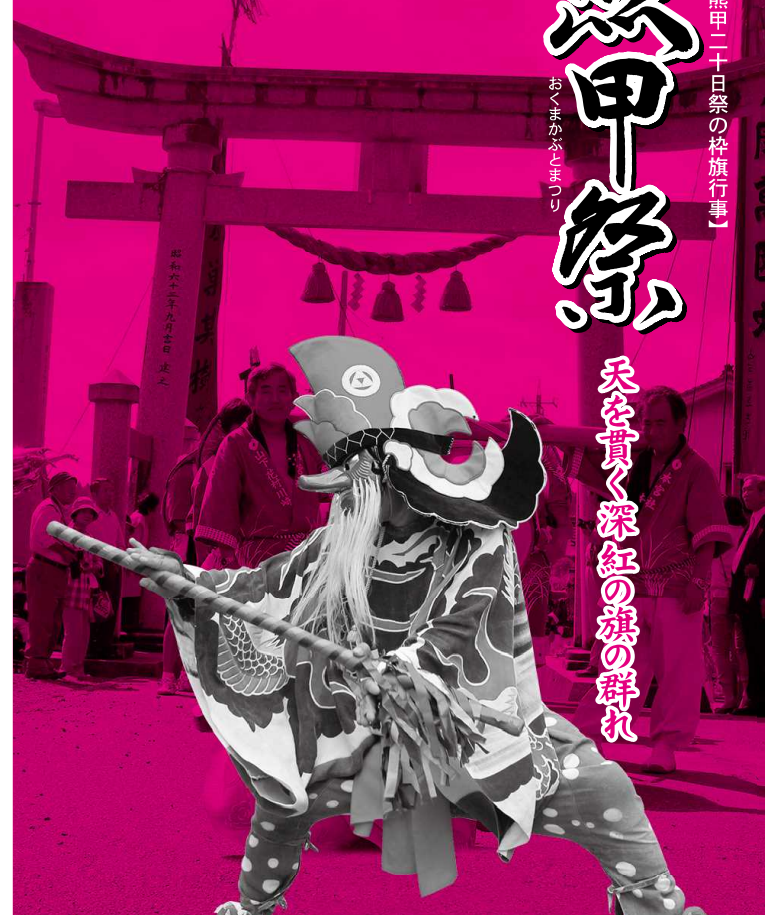
開催時間：9～17時
休館日：第2・4水曜日、年末年始
☎ (076) 62-4332
<https://wakura-omatsuri.com>



お熊甲子

おくまかふとまーい

天を貫く深紅の旗の群れ



 9月20日
七尾市・お熊甲祭奉賛会

お問い合わせ先 **0767-53-8424**
(七尾市産業部交流推進課)

E-mail:koryu-s@city.nanao.lg.jp
URL:http://www.city.nanao.lg.jp

新型コロナウイルス感染症の拡大や天候等のその他の状況により祭行事の変更・中止の可能性があります。
状況につきましては、[お熊甲祭公式ホームページ](#)または[七尾市ホームページ](#)にてご確認をお願いいたします。

国指定重要無形民俗文化財・熊甲二十日祭の杵旗行事

昭和56年(1981年)1月21日指定

お熊甲祭

おくまかぶとまつり

この祭は、久麻加夫都阿良加志比古神社(熊甲神社)の大祭で、毎年9月20日に行われることから“二十日祭”とも呼ばれています。

町内の各集落に鎮座する19の末社からくり出した神輿は、猿田彦の先導で、高さ20メートルばかりの深紅の大杵旗やお道具を従え、「イヤサカサー」の掛け声と鉦・太鼓の音も賑やかに、本社に参入します。

拜殿に全神輿が参入すると、本社で奉幣式に移り、若衆が鉦・太鼓を打ち鳴らし、それに合わせて猿田彦が境内いっぱいには乱舞します。

祭典後、本社の神輿を先頭に、「しらい」で決まったクジ順に渡御が行われ、境内から700メートルほど離れた加茂原へ移動します。

お旅所である加茂原では、お練りが行われ、3回廻ります。早廻りや杵旗を地上すれすれまで傾ける「島田くずし」と呼ばれる大技も披露され、祭は最高潮に達します。

「島田くずし」とは

長大な杵旗を担ぎながら傾けて、大旗を地面すれすれにまで下げる大技で、祭りの見せ場の一つです。

島田とは娘が結う日本髪(しほたまげ)のことで、その昔、大旗の先端が祭り見物の娘の島田にあたり、その髪がくずれたことで名付けられたといわれています。



能登中島の杵旗祭

実りの秋を迎えると、町内の各集落では、1年間の五穀豊穡に感謝する秋祭が始まります。

9月の始めから終わりまで、鉦や太鼓の音が町内のどこかの集落から聞こえ、この地域は文字通り「祭」一色となります。

秋祭では、20mを超える深紅の大旗を担いで練り歩く、全国でもこの地域にしか見られない「杵旗祭」が行われます。

この杵旗祭には、各集落の産土神社の祭礼(小祭)と中世以来の由緒ある惣社を中心に各集落がより集う“寄り合い祭”(大祭)があり、江戸時代以降、連綿たる伝統として受け継がれてきております。

◆笠師祭 9月第2土曜日

◆お熊甲祭 9月20日

◆新宮祭 秋分の日

◆六保祭 9月最終土曜日

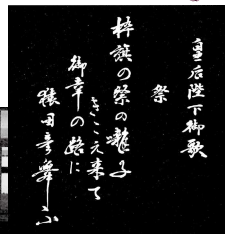
「猿田彦」について

日本神話で、天照大神の孫である瓊瓊杵尊降臨の際、先頭に立って道案内したといわれる神様。顔赤く、鼻の高いのが特徴で、祭行列の先導を務めています。

本祭礼では、鉦・太鼓のリズムに合わせて踊る姿がユーモラスです。

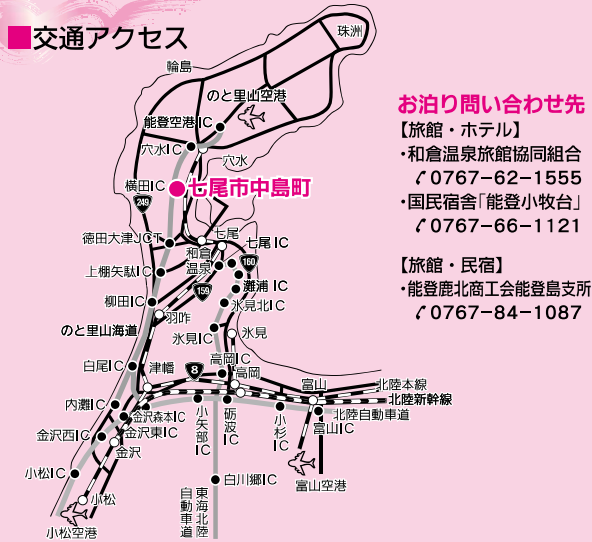


上皇后陛下御歌碑[祭り会館前庭]



平成8年上皇上皇后両陛下が杵旗祭りの郷へ行幸啓になられました。上皇后陛下はその時のご印象を「祭」と題して御歌集「瀬音」にお詠みになられました。

交通アクセス



お泊り問い合わせ先

【旅館・ホテル】

・和倉温泉旅館協同組合

☎0767-62-1555

・国民宿舎「能登小牧台」

☎0767-66-1121

【旅館・民宿】

・能登鹿北商工会能登島支所

☎0767-84-1087

自動車

■東 京から/東各・名神・北陸自動車道・のと里山海道にて……約7時間30分
関越・北陸自動車道・のと里山海道にて……約6時間30分
■大 阪から/名神・北陸自動車道・のと里山海道にて……約5時間
■名古屋から/名神・東海北陸自動車道・能越自動車道にて……約4時間
名神・北陸自動車道・のと里山海道にて……約4時間
(北陸自動車道「金沢森本IC」からのと里山海道をご利用いただくに便利)

■金 沢から/のと里山海道にて……約1時間20分
■富 山から/北陸自動車道・能越自動車道にて……約1時間50分
■高 岡から/能越自動車道にて……約50分

鉄道で(七尾駅でのと鉄道に乗り換え、能登中島駅まで)

■東 京から/北陸新幹線「かがやき」で金沢乗り換え
特急「能登かがり火」利用……約4時間
■大 阪から/特急「サンダーバード」で金沢乗り換え
特急「能登かがり火」利用……約4時間30分
■名古屋から/特急「しらさぎ」で金沢乗り換え
特急「能登かがり火」利用……約4時間30分
■金 沢から/特急「能登かがり火」利用……約1時間20分

バスで(和倉温泉駅でのと鉄道に乗り換え、能登中島駅まで)

■高 岡から/加越能バスが運行する「わくライナー」にて……約1時間50分
※北陸新幹線「はくたか」が停車する新高岡駅を経由する「高岡-氷見-和倉温泉」間の路線バス
※北陸新幹線「かがやき」は「新高岡駅」には停車しません。

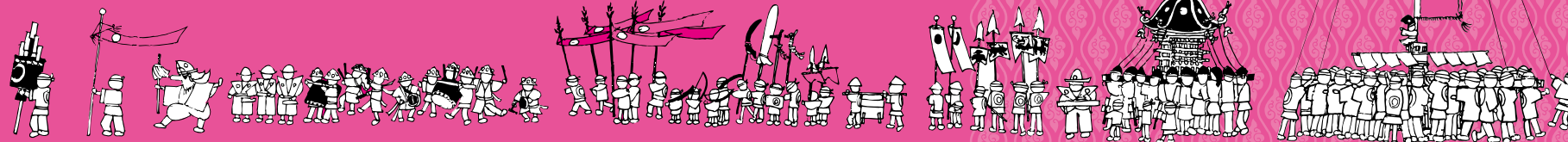
飛行機で

■東京(羽田)から/のと里山空港着……約1時間30分
※ふるさとタクシーご利用(片道1,600円、要予約)
※中島タクシー ☎(0767) 66-0114

行列の編成

金幣、社名旗、猿田彦、鉦・太鼓2組、お道具、奉幣、神輿そして杵旗が大祭に参加する行列の基本的な構成であり、70人近くの人足を要します。

この行列の構成は末社ごとの本社境内参入、お旅所への渡御、そしてお旅所でのお練り行事においても基本的に変わりませんが、各集落の規模により人足の数に多少があります。



●金幣(きんべい)
御幣を上部に取付けたもの。多くは社紋を染め抜いた黒が紺の布を木枠にかぶせ下で結んである。

●社名旗(しゃめいき)
2mくらいの長さで各末社の社紋、神社の名前が染め抜かれたもの。

●猿田彦(さるたひこ)
狩衣風の衣装を身に着け、軽やかな足取りで踊りながら、手に持った被棒で道を清め、祭り行列を先導する。

●鉦・太鼓(かね・たいこ)
花笠と派手な着物がトレードマークの祭りの囃子方。ゆるやかなリズムに乗って踊る。

●お道具(おどうぐ)
行列に華やかさを添えるお道具持ちの一行で、主に子どもの役目。

●奉幣持ち(ほうへいもち)

●神輿(みこし)
働き盛りの男たちが担ぐ神輿には、神様がお乗りになる。

●杵旗(わくばた)
大旗(オオバタ)とも称されるように、20m前後の高さになる。数十人の若衆が勢いよく担ぎ、行列のしんがりを動める